

## ■ 住職戯言



## 悪業と懺悔

---

### 悪業と懺悔

昨年の十一月に甲府のあるお寺に行きました。境内に小さな祠があり、石仏様がおられました。

そこに「厄難除」と彫られてあったのです。

私は、「厄、除(よ)け難し」と読みました。

厄(わざわい)はいつどこで遭うか判らない。お釈迦様も、あらゆる事が苦しみであるとおっしゃっています。また、仏教では、「悪因悪果」悪いことは、自分自身に原因があるとも申します。

悪いことが起きたとすれば、自分の行いを省みて、悔い改めなければならないのです。けれども、私たちは、日頃から、自らの行いを省みることをしてしているでしょうか。

その時は、私は、石仏様に一心に祈って、自らを省みる懺悔をしたのです。

懺悔とは、「広説佛教語大辞典」によれば、「私が犯した罪を仏の前に告白して、悔い改めること」とあります。

「懺悔文」というお経には、「我、昔より造りし所の諸々の悪業」とあります。悪業とは、何でしょう。

お経の最後に「一切の我を、今、皆懺悔する。」とあります。

「我」を、「広説佛教語大辞典」で見ると、自我に対する執着とあります。

悪業は、自分に対する囚われ、自分本位の身勝手さから出てくるのです。

そして、懺悔は、自分本位の身勝手な行い、言葉、想いを省みて、それを悔い改めて、自分に対する囚われから解放された自由な見方、考え方で、あるがままの現実を受け入れていく

ことなのです。

十一月二十二日は「いい夫婦の日」という記念日です。甲府のお寺に行きましたのは、この日に、修行道場の後輩が結婚するというので、呼ばれて私は車で行ったのです。

お寺での仏前結婚は、厳かに行われました。

式の後、披露宴が甲府から、三十キロも離れた八ヶ岳のリゾートホテルで行われると言うので、私は、修行道場時代の先輩を車に乗せ、中央道で会場まで行きました。

披露宴は、山梨の甲州ワインが用意されておりました。先輩方は大分楽しまれたようです。私は、運転があるので、もちろん、ノンアルコールの葡萄ジュースを美味しくいただきました。

二時間の披露宴も終わり、甲府のお寺に先輩を送ることになりました。私は、甲州ワインを堪能された先輩方を乗せ、車で戻りました。

その帰り道、中央道で甲府のインターチェンジにさしかかった時、警察の検問があったのです。

私は、「いい夫婦の日」であり、結婚式が多くあり、八ヶ岳のリゾートホテルでも四組の結婚式があったくらいでありますから、飲酒運転の検問であろうと確信しました。

私は、二時間、ノンアルコールの葡萄ジュースで我慢したのです。自信を持って、検問のおまわりさんに、笑顔でアルコールの検査ですか。と聞きました。

おまわりさんも笑顔で、シートベルトの検査です、と答えてくれました。

私は、もちろんしていましたが、残念ながら、後ろの席の先輩は寝ており、シートベルトをしていませんでした。

私は、減点一をいただきました。書類に人差し指で拇印を押す時、とても悲しく、怒りの気持ちになったのです。先輩に怒りをぶつける訳にはいかず、自分の不運に怒りを覚えました。

そんな気持ちで、甲府のお寺の境内で「厄難除」と彫られた石仏様を見つけたのです。この不運は、何かしら、自分の悪業に起因するのだろうと懺悔をする気になったのです。

私は、一心に石仏様に祈りました。

すると、判ったのです。私は、自分の事しか、考えていなかったのです。先輩の安全の事など何も考えていなかったのです。検問に捕まったことを不運と片付けずに、ありのままに見れば、おまわりさんは、運転者は、同乗者の安全も担っているのだから注意しなさいと教えてくれていたのです。

判ってしまうと、何やら心がすうと軽くなりました。

この石仏様は、ご利益があるなと思いました。ちょうど、後輩の住職が来たので、この石仏様はすごいな、「厄除け難し」と彫ってあるけれど、懺悔をしていたら、心が軽くなったぞと話しました。

後輩の住職は、竺園寺さん、これは「厄(やく)難除(よ)け」と読むのです。そんな、ひねくれた読み方をしないでください、と言いました。

「厄」は白川静さんの「常用字解」では、車に馬を繋ぎ留める「くびき」とあります。私は、自分というものに、繋がっていたのです。自分の減点一を惜しみ、こんなところで捕まってしまう自分の不運に怒りを覚えたのです。

それが、一心に石仏様に祈る事によって、自分を省みることができたのです。

懺悔によって、自分本位な身勝手な見方を離れ、素直になることができたのです。厄(わざわい)という、自分自身を繋ぎ留める「くびき」から解放され、厄(やく)を除き、現実の物事があるがままに見ることができるようになったのです。

厄難は、私の心から除かれたのです。

日々、苦しみの現実は、心を重くしていきます。それを厄と片付けずに、懺悔によって、自らを省みて、心を軽くして、ありのままに現実を受け入れ、心を解放していきましょう。